

# 看護二次資料の変遷と文献の動向 (1)

今田 敬子 (イマダ タカコ)

上武大学看護学部、前日本看護協会看護教育・研究センター図書館

**背景：**看護文献検索二次資料は、その存在と個々の特質を、看護司書が理解した上で、看護図書館で整備提供すべき資料であるが、理解も整備活用も不十分なのが現状である。

看護図書館司書の大半は公共図書館との配置転換で数年しか在籍せず、看護領域の資料情報が把握しにくいことも要因であろう。看護図書館協会発足当時は、学習会や会報による情報共有の動きも多少あったが、常に新しい情報やより高度な情報を追い求め、基礎的知識の普及という面での配慮が不足していたと思われる。

看護二次資料の変遷を纏め、その特質と看護文献の動向との関連性を整理しておきたい。

- 目的：**
- 1) 看護二次資料の概要を、それぞれの刊行目的、内容構成と編集・発行体制等を整理記録し、利用の便に供する。
  - 2) 看護二次資料は、最も重要な要素である、継続性や速報性に関する問題点が多かった。問題点とその要因を分析考察することにより、今後の国内看護二次資料の円滑な発行に資する情報提供を行う。
  - 3) 二次資料に採録された文献を分析することにより、その領域の文献の特徴が把握できる。

**方法：**索引誌としては「医学中央雑誌(1903)」「日本看護関係文献集(1975)」「最新看護索引(1989)」および継続刊行されていない「看護技術文献索引(1977)」「看護文献抄録集(1979)」「看護総索引(1979)」「看護関係雑誌文献目録(1980)」「人口肛門関係文献集(1980)」「臨床看護研究文献集(1981)」「老人看護文献集(1981)」「日本看護学会研究論文総索引(1984)」「生活行動援助の文献集(1986)」などの看護文献を採録した索引誌の刊行目的、内容構成および編集・発行体制を記載された情報を中心に整理し、継続刊行できなかった要因も考察する。国外の索引誌については、対象としない。

速報性を目指した「Core Contents of Nursing」と、「Nursing Today」創刊時の情報発信はいずれも継続しなかったが、その刊行目的、内容構成および編集・発行体制とともに継続性の障害要因を明らかにする。

**備考：**今回は二次資料の変遷までを対象とし、文献の動向分析は次の機会とする。